

# 【インフルエンザ予防接種】

## 被接種者等の責務

B類疾病の予防接種は、主に個人予防目的のために行うもので、予防接種の対象者は予防接種を受けるよう努める必要は無い。自らの意思と責任で接種を希望する場合のみに接種を行う。予防接種の対象者の意思確認が困難な場合は、家族またはかかりつけ医の協力により対象者本人の意思確認をすることは認められているが、接種を希望することが確認できた場合に限り接種を行うことができる。（この場合はB類疾病であることを踏まえ積極的な接種推奨にならないよう特に留意する。）

対象者の意思確認ができない場合は、予防接種法に基づいた予防接種を行うことはできないことから、任意の予防接種として接種を検討する。

※B類疾病・・・個人予防のこと（個人の発病・重症化防止目的に比重をおいた疾病）

## 接種時期

地域差はあるが日本でのインフルエンザの流行は1月上旬～3月上旬が中心。ワクチンが十分な効果を維持する期間は接種後約2週間後～約5ヶ月とされる。そのためより有効性を高めるために、一般的には**10月～12月中旬**までの間に行うことが適当である。

## 接種液

- 標示された接種液の種類、有効期限内であること、異常な混濁や着色、異物混入その他の異常がないことを確認する
- 接種液の保存は温度が保たれていることが温度計により確認できる冷蔵庫等を使用する。
- **凍結させないことなど添付文書を確認の上、適切に貯蔵すること！**

## 接種回数・摂取量

インフルエンザHAワクチンを毎年度1回皮下に注射。  
摂取量は**0.5ml**とする。

## 接種時の注意

- ① 予防接種に従事するものは、手洗いの後にアルコール綿等で十分に手指を消毒し、手袋を着用すること。
- ② 接種液の使用にあたっては、有効期限内のものを均質にして使用
- ③ バイアル入りの接種液は、栓を取り外さないで清潔操作のまま吸引する。ただし栓を取り外した状態で放置した場合は、アルコール綿で栓および周囲を消毒した後に吸引する。  
  
**※吸引する針（23G 針）は1バイアルに対して1本の使用とする**
- ④ 接種液が入っているアンプルを開口するときは、開口する部分をあらかじめアルコール消毒する
- ⑤ 接種用具等の消毒は適切に行う

## 接種者への注意

- ① インフルエンザワクチン接種後24時間は副反応の出現に注意し観察する。  
特に接種直後30分以内は急激な健康状態の変化に注意する
- ② 接種後は接種部位をもみずじままに清潔に保ち、接種当日は過激な運動を避けるよう注意させる。
- ③ 接種局所の異常反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の診察を受けさせる。
- ④ 被接種者または保護者等は、③の場合において被接種者が医師の診察を受けたときには、速やかに当該予防接種を行った市町村の担当部局に連絡する
- ⑤ 予防接種当日の入浴は差し支えない

## 予防接種不適合者

- 発熱（37・5℃以上）
- 重篤な急性疾患にかかっている者  
「重篤かつ急性」の疾患に罹患している場合には、病気の進展状況が不明であり、このような状態で予防接種を行ってはならない。  
「重篤でない急性」の疾患や「急性でない重篤」の疾患に罹患している場合、予防接種による効果が疾患にたいする影響を上回ると判断できる者には、予防接種による効果と副反応について十分な説明の上、予診票による同意を得たな場合に限り予防接種を行うことができる。
- 接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがある者
- インフルエンザ予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた者及び、全身性発疹等のアレルギーを疑う病状を呈したもの
- その他、予防接種を行うことが不適切な状態にあるもの。
- **妊娠中または妊娠の可能性のある方（主治医から許可をもらっていたとしても、接種は絶対に行わないこと！）**

## 予防接種要注意者

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者
- ② 過去に痙攣の既往のある者
- ③ 過去に免疫不全の診断をされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する者
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある者

## 他の予防接種を受けている場合の接種期間

インフルエンザワクチン接種前に受けた予防接種の有無、種類を確認し、最近受けた予防接種が生ワクチンであった場合は接種した翌日から起算して27日以上、不活化ワクチン又はトキソイドの場合は接種した翌日から起算して6日以上の間隔をおく。

### 生ワクチン

ポリオ、麻疹、風疹  
麻疹・風疹混合 (MR)  
BCG、ムンプス、水痘

→

不活化ワクチン  
生ワクチン  
27日間以上あける

### 不活化ワクチン

日本脳炎、インフルエンザ、  
A型肝炎、B型肝炎、肺炎球菌、  
狂犬病、3種混合 (DTP)、  
2種混合 (DT)、ジフテリア、  
破傷風、インフルエンザ菌b型

→

不活化ワクチン  
生ワクチン  
6日以上あける

## 予診

- 接種を受ける法律上の義務が無いことから、対象者が自らの意思で接種を希望していることを確認する。
- 予防接種を希望するものが必要性を理解しているか、予防接種不適合者又は予防接種注意者に該当しないか、当日の体調がよいか等判断するために予診票を活用し十分に行う。

予防接種後にある疾患が偶然発見されたり、発病することがある。

このような偶発的な疾患は予防接種そのものによる副反応との鑑別が困難な場合もあるが、鑑別を効果的に行うためには、接種時に受ける者の状態を予診票を利用し、さらに問診又は診察によって確認しておくことが大切。

- 対象者本人が予防接種の説明書により、有効性・安全性を理解しているかどうか質問をする。

理解していない場合には、説明書を接種前に読んでもらうか、又は医師が説明を行うなど対象者が理解したことを必ず確認する。

- 予診票は、安全に予防接種が可能であるかを判定する重要な資料である。
- 予防接種前診察（問診、検温、視診、聴診等）は必ず実施する。

健康被害の大部分は不可避免的に生ずるものであるため、これによってすべての健康被害の発生を予見できるものではないが、医師としては予診を尽くし最大限の努力をして、予防接種を受ける者の体調を確認することが求められる。
- 診察において問題点があれば安全のためその日は接種を中止し、最良と思われる接種時期を話し合い、接種機会の確保を図る。
- 接種対象者に対し、接種後の通常起こりえる反応及びまれに生じる重い副反応、予防接種健康被害救済制度について十分に説明し、対象者がその内容を理解した上で接種を希望し、予防接種の実施に関しての予診票による同意が無ければ接種を行うことはできない。

## 予診票の各項目の留意点

### ① 体温

37・5℃（腋窩温またはこれに相当するもの）以上は、発熱者として接種を中止する

### ② 効果や副反応についての事前確認

予防接種の必要性を理解しているかを確認。

「はい」の場合でも内容の理解ができていないかを確認することが必要

### ③ 当日の体の具合

どのように具合が悪いかを記入する。

病気の種類により、医師の判断で接種の可否を判断する

### ④ 最近1ヶ月の状態

重篤な急性疾患に罹患している場合は接種を中止する

### ⑤ 副反応

前回のインフルエンザ予防接種で、2日以内に発熱・全身性発疹等のアレルギー反応を疑う症状を呈した既往の有無の確認を行う。

これらの症状がインフルエンザ予防接種のものであれば接種を中止する

### ⑥ 既往歴・現病歴

継続して治療を受けている場合は、原則としてかかりつけ医が判断して接種する。

### ⑦ アレルギーなど

卵アレルギーが明確な者（食べるとひどい蕁麻疹や発疹が出たり、口腔内がしびれる者）  
に対しては接種の際注意する。

### ⑧ 医師記入欄

医師は予診票を確認し、必要に応じて追加質問しさらに診察した上で接種の可否にの判断を行い接種者に説明をする。

署名は医師の直筆で行う。

### ⑨ 使用ワクチン名

ロットNo.のシールを貼る。

（万が一副反応が出た場合に備え、ワクチンメーカーの確認ができるため）

### ⑩ インフルエンザ予防接種希望者

医師が接種可能と判断した場合、医師から予防接種に関する十分な説明を受け、その効果や接種後起こりえる反応及びまれに生じる重い副反応並びに予防接種健康被害救済制度について十分理解した上で、被接種者の接種希望を確認するために最後に被接種者が署名する。

## ワクチン接種

- 予診票の**医師記入欄が予防接種可能**になっているか、**医師の署名**があるか

**本人の署名**があるか必ず確認する。

医師記入欄	以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は（可能・見合わせる）
	本人に対して、予防接種の効果、副反応及び医薬品医療機器総合機構法に基づく救済について、説明した。
	医師署名又は記名押印
インフルエンザ予防接種希望書 ※本人記入、もしくは保護者	
医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、副反応の可能性、及び裏面の個人情報の取扱いについて理解し、接種することに同意します。	
	署名 <span style="float: right;">（代筆者の場合：続柄）</span>
（※自署できない者は代筆者が署名し、代筆者氏名及び被接種者との続柄を記載）	

- 接種部位がよく見えるように十分に上腕を露出させ、着衣等で上腕をしめつけないようにしておく
- 接種前には接種部位をアルコール消毒する  
(アルコールに過敏な方には専用の消毒液で対応する)
- 肘関節を屈折させ、針の先端が筋肉内に入るのを防ぐために注射部位つまみ隆起させ接種する
- 刺した時点で神経に接触していないか確認をする  
もし神経に接している場合には神経に沿った放散痛や強い痛みが生ずる。  
この場合には速やかに接種を中止し、接種部位を変更する。
- 注射針の先端が血管内に入っていないことを確認する  
もし血液の逆流があれば、接種部位を変更する。

- ワクチン液の注入はゆっくり行う。

針の挿入時よりもワクチン液注入の方が痛みを感じる人が多いため。

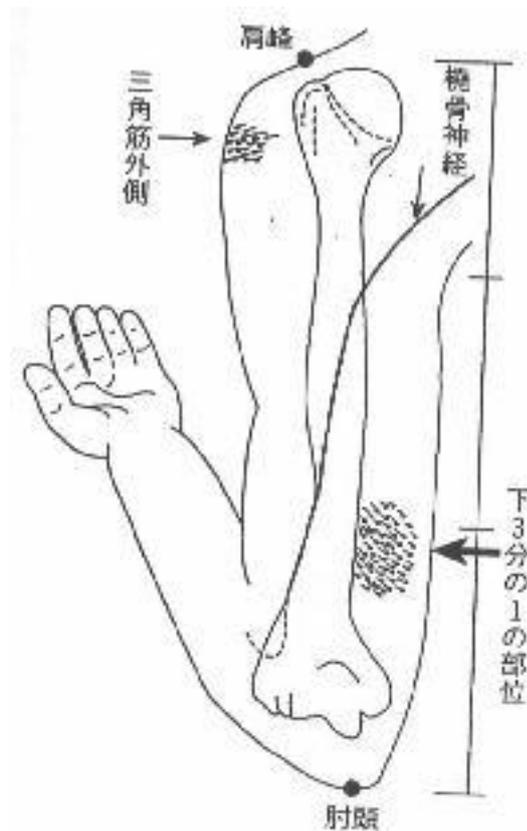
- 接種後は接種部位をアルコール綿で押さえ、絆創膏を貼る。

接種部位を液が漏れ出ないように注意しながら、揉まずに血が止まる程度に押さえる。この時点で強く揉むと皮下出血を起こすこともあるので、血管の脆弱な高齢者や出血傾向のある方には注意する。

- 予診票に接種時間の記入をする。

- 接種後の注意の用紙を被接種者に説明しながら渡す。

## 接種部位



## 予防接種後の反応

予防接種後、一定の期間に種々の身体的反応や疾病がみられることがある。

異常な反応を疑う症状が見られた場合、これを健康障害と呼んでいる。

健康障害の起こる要因としては、予防接種そのものによる副反応の他、偶発的に発症または発見された疾病が混入することがある。

副反応を起こさないためや紛れ込み事故を防ぐために、予防接種前に既往疾患を発見しておくことが重要である。

このため、接種前の体温測定、予診、予診票による健康状態のチェックが行われる。

しかし、ワクチンの改良が進んだ今日でも、また予診を十分に行っているにもかかわらず、予防接種による予知できない重篤な副反応や後遺症はまれに起こりうる。

そのため予防接種に関わる者は、副反応に関する情報とインフルエンザワクチン接種後24時間以内の健康状態の変化、特に30分以内の急激な健康状態の変化には注意を要することを、被接種者にも十分説明し、副反応についても理解した上で自らの意思で接種を希望する場合に限り接種を行うため、予防接種の実施に関して予診票による同意を得ておくことが必要である。

## 重大な副反応

### ・ショック・アナフィラキシー

まれにショック、アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等)があらわれることがあり、そのほとんどは接種後30分以内に生じるが、まれに接種後4時間以内におこることもある。

その他、ギランバレー症候群、痙攣、急性散在性脳髄膜炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作がある。

## その他の副反応

### ・過敏症

まれに接種直後から数日中に、発疹、蕁麻疹、紅斑、掻痒等があらわれることがある。

### ・全身状態

発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等を認めることがあるが、通常2～3日中に消失する。

### ・局所症状

発赤、腫脹、疼痛等を認めることがあるが、通常2～3日中に消失する。

## 体温測定

- 非接触型皮膚赤外線体温計を使用し、額で測定をする。

額に汗をかいていたり、外から戻ったばかりで額が冷えている場合は体温が低く出てしまうので、近似値が測定できる首で測定してもよい。（近似値しか測定できないので注意する）

- 37、5℃以上または35℃以下の場合はもう一度測定しなおす。  
それでも37、5℃以上、35℃以下の場合は普通の体温計で脇にはさみ測定する。  
予測値測定で電子音になるが、実測値を計るので10分待つ。

脇の下で測定した場合は、体温計をアルコール消毒する。

- 予診票に数値を記入する

## ワクチン接種までの流れ

- ① 受付（予診票記入）
- ② 体温測定
- ③ 医師による問診、説明
- ④ 接種

## 物品準備

- ① ワクチン
- ② 検体バック
- ③ 保冷剤
- ④ 1ml シリンジ
- ⑤ 針入れ
- ⑥ アルコール
- ⑦ 綿花
- ⑧ バンソウコウ
- ⑨ クレンジングコットン
- ⑩ タッパー
- ⑪ トレイ
- ⑫ Drセット
- ⑬ 体温計(2種類)・小タオル

- ⑭ 血圧計
- ⑮ 枕
- ⑯ 予防接種後の注意書きの用紙
- ⑰ 受付名簿（必要に応じて）
- ⑱ 筆記用具
- ⑲ 白衣
- ⑳ 標示

ゴミ袋（大・小）

ガムテープ

予備予診票

手指消毒液

ナンバリング・日付印

23G針(分注用)

ゴム手袋（ノンラテックス）

救急セット（5%ブドウ糖、輸液セット、翼状針 22G2 個、23G2 個、  
2.5ml シリンジ 2 本、ソルコーテフ 2A ずつ、アンビューバック、  
ボスミン 2 ヶ、固定テープ）

2019.10 改正